

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「非認知能力」の視点からの幼児理解の充実 ～互いに思いを受け入れながら遊び込める活動を通して～

特別研修員 幼児教育 山崎 一秀 (幼稚園教諭)

【教師の願い】

- ・遊び込む楽しさを味わってほしい
- ・友達と一緒に遊ぶ楽しさを知ってほしい
- ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「非認知能力」を関連付けることで、幼児理解を深めたい

【幼児の実態】

- ・自分本位な子が多い
- ・他人への関心がうすい子が多い
- ・充実感や満足感の欠如
- ・持続力や継続力が弱い

【手立て】

- ・互いに思いを取り入れながら遊び込むことができる活動の設定
- ・友達と共に一体感をもてる教師の援助や環境の構成

研究の見通し

遊びの中で表れる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と「非認知能力」の育ちを関連付けて見とっていくことで、幼児理解が深まるのではないかと。

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

非認知能力

海賊ごっこ

カッコいいでしょ。僕の強んだよ

じゃ戦ってみようぜ



いいよ。勝負だ

これで船作ろうか

ここここをくっつけよう



みんなで乗れる大きな海賊船にしようよ

ここ作りたいんだけど、倒れちゃうな

僕が押さえてあげる



俺たち仲間だもんね

うん。ありがとう

【健康な心と体】作りたい武器のイメージをもち、見通しをもって作る

主体性

【豊かな感性と表現】思い思いの武器を作る中で、自分のイメージを表現する

【協同性】作った武器を見せ合ったり、作った武器で一緒に遊んだりする

社交性

【言葉による伝え合い】自分の武器のかっこよさを言葉で伝え合う

【協同性】友達と一緒に船をつくろうとする

協調性

【言葉による伝え合い】くっつけたい思いを言葉にして伝える

【思考力の芽生え】自分のイメージを具体的に考える

創造力

【豊かな感性と表現】友達と一緒に乗れる大きさの船を作ろうとする

【思考力の芽生え】倒れてしまう板段ボールをどう立たせるか考える

協同的問題解決能力

【協同性】板段ボールを押さえる役と留める役に分かれて協力する

【協同性】仲間意識をもって大きな船を作ろうとする

挑戦意欲

【言葉による伝え合い】倒れてしまう部分を具体的に伝える

成果

幼児同士の言葉のやり取りや遊びが盛り上がったとき、挑戦したい物事に出会ったときなどに幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と非認知能力が複層的に育っていることが実践を通して明らかになり、幼児理解が深まった。

課題

想定した非認知能力以外にも多くの非認知能力が発揮されていたため、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿と非認知能力の更なる関連性を実践を通して明らかにし、幼児理解を深めていきたい。